

広報なすしおばら

NASUSHIOBARA Newsletter

6 / 5

June 2016 No.275

夏の水辺で舞う灯。
便利さの代償として、失われていくもの。

昔はどこでも見られたこの光。
あなたは見たことがありますか。

特集 守りたいもの

特集 守りたいもの

銅掛にある「イトヨの里」。
イトヨは環境省レッドリスト2007で「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されている淡水魚。この川はきれいな水草が繁茂し、透明度が高い。

豊かな自然に恵まれた那須塩原。
その自然によって生まれ、人と共存してきたホタル。
長い幼虫期を経て、ようやく成虫になるもわずか2週間の命。
その儚さがゆえ人の心に染み入り、心を洗ってくれるのだろうか。
生活の便利さの一方で失われつつある地域の自然資源がある。
これからの子どもたちのためにずっとずっと守っていききたい――

自然と共存していくためには 自然に興味を持ち、生態を知ることが第一歩

移住したくなるほどの **豊かな自然**
皆さんは自宅の周りにどんな生き物が住んでいるかご存知でしょうか。栃木は国立公園や農村部の原風景である里山など、豊かな自然環境に恵まれている県。中でも国立公園を有する那須塩原は、多種多様な動植物が生息・生育しています。つくば市で退職を迎えた私がこの地に戻ったのも、この自然の素晴らしさに感銘を受けたから。
「実体験」による発見が 感性を養う
現代はインターネットやテレビなどで簡単に知識を得ることができますが、「モノ」と直接向き合う体験が不足しがちです。自然に触れることも「実体験」の一環。教育的意義も大きいものと考えています。だからこそ、身近な自然をそのままの形で次代へ引き継いでいくことが必要なのです。しかし、現実には、人間の開発行為とともに

に自然環境は変化を迫られ、生態系に多大な影響が生じています。特に環境変化に弱い希少種の絶滅が危惧され、保護が必要な状況にある種も少なくありません。
壊すのは簡単 まず「知る」ことから
自然環境は人間社会という信頼関係のようなもの。壊すのはとても簡単ですが、修復するのは非常に困難です。
これからの時期は、初夏の風物詩ともいえるホタルが舞う季節。ホタルは長年、人と共存してきましたが、環境変化に弱く、全国的に減少が懸念されています。その原因は、人間の生活要因による場合がほとんど。「あの幻想的な光をこれからの子どもたちに残してあげたい」そう思いませんか。そのための第一歩が、まずは「知る」こと。ホタルのこと、自然のこと、環境保護のことを一緒に考えてみませんか。



市では野生動植物の生息・生育状況を調査し、絶滅のおそれのある希少野生動植物種についてまとめたレッドデータブックを今年度中に発刊予定。

市動植物調査研究会
会長 **松村 雄 氏**



長年の功績に栄誉

～叙勲・褒章受章～

このほど叙勲・褒章が発表され、本市から8人の皆さんが受章されました。
ここで、受章された3人(5人は掲載を辞退)の経歴とコメントを紹介します。

危険業務従事者叙勲

「地域の役に立ちたい」 変わらぬ思い



瑞宝 双光章 消防功労 69歳

後藤 浩之 氏

昭和42年、黒磯町消防本部に奉職。平成20年に黒磯那須消防本部次長で退職。現在は、自治会長をはじめ、生きがいサロンでのボランティア活動など、地域に根差した活動を積極的に行っている。

「地域の役に立ちたい」この一心で消防士となった後藤さん。退職するまで多くの現場を体験し、阪神淡路大震災では、いち早く志願して現地へ赴き、救助活動に従事しました。
また、那須水害や大工場の火災でも現場指揮を執り、「その時は、決断を下す難しさを痛感した。住民の被害を最小限にすることしか考えなかった」と当時を振り返ります。
「地域の役に立ちたいという思いは今も変わらない。高齢者の生きがいサロンでは、毎回参加者から元気をもらっています。今後も地域に尽くしていきたい」と話してくれました。

「1日でも早い社会復帰へ」 導く強い気持ち



瑞宝 単光章 矯正業務 66歳

森 三千雄 氏

昭和45年11月旧宇都宮刑務所に拝命。昭和46年3月に黒羽刑務所へ転勤。平成22年3月に退職するまでの39年間現場で受刑者と向き合い続け、更生と社会復帰に全力を注いだ。

「職務に必要なのは、強い気持ちと公平性。また、相手は犯罪者であっても人。『更生』と『人権への配慮』との観点が葛藤があった」と森さんは話します。受刑者に怖さを感じる瞬間もあり、「何度も辞めようと思ったが、それでも39年間職務を全うできたのは、同僚や先輩、そして何よりも家族の支えのおかげです」と感謝の思いを語ってくれました。
「まさか受章するとは思っていなかったので驚きましたが、自分のしてきたことを認めてもらえたのは本当にありがたいこと」と、感慨深そうに話しました。

「安心安全な地域づくり」 に貢献したい



藍綬 褒章 保護司 75歳

田代 稔 氏

平成3年から保護司の活動を始め、平成23年には、那須保護区保護司会長へ就任。現在も同会顧問を務めるなど、25年間、犯罪や非行をした人の更生をとおり、安心安全な地域づくりに尽力している。

「今回の受章は、同じく保護司として活動してきた仲間をはじめ、皆さんの協力があってから。自分だけでなく、みんなでもらった章だと考えています」と話す田代さん。
多いときは同時に6人を担当し、無事に社会復帰が出来るよう親身に相談を受けました。
「何度も面会し、相談に乗った人が無事仕事につけて、真面目に働いている姿を見ることができた時、とてもやりがいを感じます」。そう話す田代さんは、その場面を思い出ししているようで、少し遠くを見つめる視線は、とても温かなものでした。

春の褒章

知る

地域資源でもあるホタルの保護。そのためには生態やホタルが置かれている現状を知ることが必要です。この地域で長年ホタルを見守ってきた君島さんに話を伺いました。

ホタルの存在は自然が残されている証
時間をかけて育むことが大切

次第に崩れる共存バランス
ホタルは昔から人と共存してきました。しかし、近年このバランスが崩れつつあります。主な要因として農業の散布、人工光の増加、エサの減少、水辺の開発などがあげられます。これらはいずれも人間の生活要因によるもの。人工光の増加は「光害」と呼ばれ、光に敏感なホタルは、人工光が照るところから姿を消してしまいます。また、幼虫の餌であるカワニナなどの巻貝の減少は、水質汚染による影響が大半。人間が配慮することで共存できる余地は大いにあります。

復活は時間をかけてゆっくり
ホタルは生息する水系ごとに固有の遺伝子を持ちます。実際に東日本と西日本とで発光間隔が倍以上異なる個体群もいるほど。そのため、ただいたずらにホタルを放すのはよく考えなければなりません。ホタルが減った原因を分析し、今ホタルがいるところをこれからも守っていくことが最も大切だと思います。

一生の大半が水中で羽化して10日の命

ホタルは甲虫で、カブトムシなどと同じ仲間です。ホタルの一生は約1年。そのうち約10カ月を幼虫の姿で過ごします。市内に生息する主なホタルは、ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類。幼虫は4〜5月になると陸に上がって土に潜り、成虫になるために約1カ月ほど土マユというサナギの状態で眠ります。そうして羽化した後、交尾相手を求めて光るのです。

成虫として生きられるのは約1〜2週間。本当にあつという間です。成虫は口が退化して水分しか摂取せず、幼虫期に蓄えた栄養だけで過ごします。

全てが揃ってようやく育つ

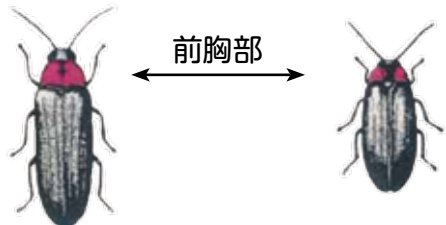
ホタルは一生のうちあらゆる環境を介して育ちます。幼虫が育つ水中、成虫が飛ぶ空中のほか、産卵するコケ類のある岸辺、サナギが眠る土中など、ほぼ全ての環境条件が揃わないといけません。そのいずれかの環境が、汚染や人工物の設置などによって阻害されると、ホタルにとっては一気に過酷な生育環境になってしまいます。

それだけ変化に敏感な昆虫なため、指標昆虫にも指定され、良好な自然環境を示す基準にもなります。つまり、ホタルが住める環境を残していくことが、豊かな自然を残すことにもつながるのです。



※環境調査のために選ばれた10種類の昆虫のこと。良好な自然環境に生息するため、生息していることが1つの指標となる。ほかにタガメやハッチョウトンボなども指定されている。

ゲンジボタル ヘイケボタル

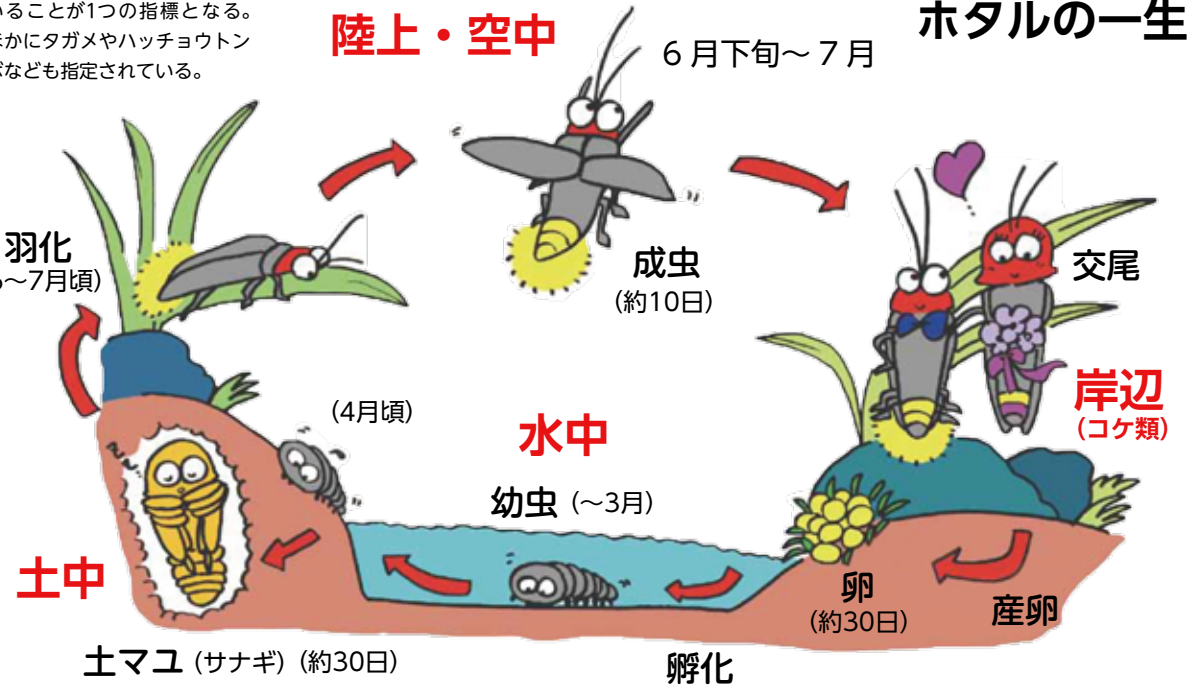


ゲンジボタル
体長12〜20mm。前胸部の中央に丸い黒紋がある。光が強く発光間隔の長さが特徴。

ヘイケボタル
体長7〜10mmでゲンジボタルより一回り小さい。前胸部の中央に太く黒い縦の帯がある。ゲンジボタルに比べて光は弱く、発光間隔が短い。



ホタルの一生



寄り添う

守る

減りゆくホタルの光を守ろうと、保全活動に取り組む人々。その思いとは――

二区町地域資源保全隊

地区内のホタルが多く飛ぶ場所を「ホタルの里」という活動の拠点にし、周辺の草刈りや水路の清掃など、生育環境の保護に取り組む。



隊長 小林 憲治氏

「30年前、田んぼがあの光でいっぱいだった」。当時を振り返りながらホタル川を眺める小林さん。子どもたちにあの頃の光景を見せてあげたいと、保全活動に対する思いを語る。

「農薬の散布が始まったからだと思う。年々ホタルは減っていった」。小林さんが長年眺めてきた人とホタルの共存バランスも、年々崩れていくばかりだった。

平成17年に那須疏水の水路をホタル川として造成し、保全活動を開始。今では毎年、ホタルが飛んだ数を記録し、活動の効果を見守る。観察会として披露し、多いときは70人ほどが参加することも。「なるべく人の手を加えず自



シュレーゲルアオガエル 準絶滅危惧(県レッドリスト)

然のままホタルを増やしていく」それが小林さんの考え。子どもたちと行う生き物調査では、シュレーゲルアオガエルなどの希少種も確認され、参加者の驚きや喜びにつながっていると話す。「徐々に大人になるにつれてホタルの存在が頭の片隅から消えてしまう。忙しい毎日こそ、あの幻想的な光に意識を向けてみてほしい」と話してくれた。

30年前に見た光景をいつか今の子どもたちにも――

地域にホタルが舞うこと みんなの気づきや誇りにつながれば

「ホタルでいっぱいになすっか」そんな冗談半分のことから発した会。代表を務める永井さんの発案でスタートした活動も今年で9年目を迎える。きっかけは組内の会議中、休憩で家の外に出たときにホタルの光が舞っているのを見たこと。減少傾向にあったホタルの数も、ここ4年ぐらいは目に見えて増加が実感できるほどだと語る。

毎年6月に開催する観察会は、子どもから高齢者まで60人以上が参加する。

「この地域はゲンジボタルがたくさん舞う。しかし、ホタルの生数であつたり、近所で観察できることを知らない人が意外に多い。そういう人のためにも観察会をやる意義は



代表 永井 憲一氏

越堀自然を守る会

地区内に生ずる野生のカワニナを取集し、観察会を行う水路に放流。毎年2箇所を観察会を実施。水路の保全活動なども行う。

大きい」と、昨年度の参加者名簿を眺める。永井さんが懸念するのは生き物調査をした際に、数や種が年々減っていること。「堰を造り、水の流れをせき止めることで生態系に影響が及んでいるのか」今後の活動で原因究明への意欲を見せる。「後継者の問題などもあるが、この活動を何かの形で続けていきたい」と話していた。



カワニナは同じ水系から取集

掌の中で2つの光が出会った。

この光は、豊かな自然と人々の思いによって灯る。それはこの先もずっと変わらない。

どうか来年もたくさん舞ってほしい――
これからもこの光をずっとずっと灯し続けていきたい。

ホタルの光をゆっくり観察しよう

～ホタル観察会を開催します～

専門家がホタルの生態や観察のポイントを解説。ホタルの一生について学んだ後、観察に出かけます。

≪鍋掛地区≫

▶とき 6月24日(金)
午後7時～

▶集合場所 とうら公民館

≪二区町地区≫

▶とき 6月30日(休)
午後7時～

▶集合場所 二区町公民館

▶対象 小学生以上の市民

※小学生は保護者の同伴が必要。

▶定員 各地区20人 ▶費用 無料

▶申込開始日 6月13日(月)～

▶申し込み・問い合わせ

環境管理課 ☎ 0287(62)7193

観察マナー

- ・ホタルは持ち帰ってはいけません。自然のまま観察しましょう
- ・ホタルは光に敏感で、強い光を当てると発光をやめてしまいます。車のライト、懐中電灯、カメラのフラッシュなどが当たらないように注意しましょう
- ・近隣に住宅があります。路上駐車する、大声を出す、ごみのポイ捨てなど、迷惑になる行為はやめましょう

このまちの将来を託す子どもたちに
夢と感動を与えるために

第17回 那須野ふるさと花火大会

8/6(土)

午後7時～9時
※荒天の場合は翌日に順延。
那珂川河畔公園

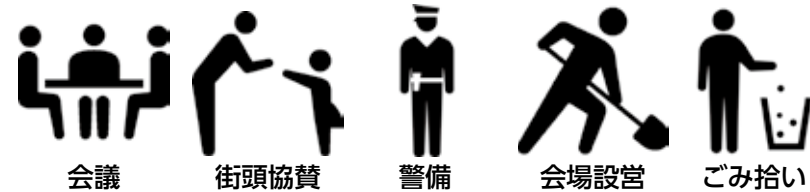
今年の夏、一緒に花火をあげませんか？

各家庭の1回分の花火のお金を集めれば、
このまちでも大きな花火大会が出来るかもしれない。

今年で17回目を迎えるこの花火大会は、
そんな思いつきから始まりました。

まちの皆さんから協賛金を頂き、運営は全てボランティア。
それは、31年前の第1回大会から今も変わりません。
ここ数年、運営を支えるスタッフが不足しています。
花火大会では、運営ボランティアスタッフを募集しています。

①スタッフ (申し込み～大会翌日)



②短期スタッフ (大会前日～大会翌日)



スタッフ説明会を随時開催中。
気軽に問い合わせてください。

問い合わせ
那須野ふるさと花火大会実行委員会

【活動内容】

- ①スタッフ
 - ・会議への参加 (月2回程度)
 - ・街頭協賛活動への参加
 - ・短期スタッフの内容
- ②短期スタッフ
 - 大会前日:8月5日(金)午前8時30分～6時
会場設営など
 - 大会当日:8月6日(土)午前8時～11時
会場設営、ごみ袋の配布・回収、撤収など
 - 大会翌日:8月7日(日)午前5時45分～
会場の清掃、ごみの回収作業
- その他
 - 部分的な参加も大歓迎です。
 - 詳細は大会ホームページで確認できます

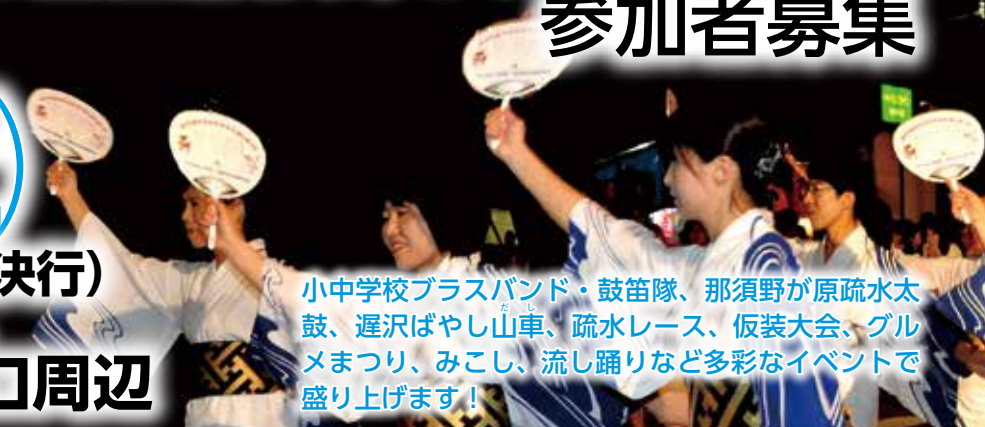
第33回西那須野ふれあいまつり 参加者募集

7/30(土)

午後3時～9時(小雨決行)

※荒天の場合は翌日に順延。

JR西那須野駅西口周辺



小中学校ブラスバンド・鼓笛隊、那須野が原疏水太鼓、遅沢ばやし山車、疏水レース、仮装大会、グルメまつり、みこし、流し踊りなど多彩なイベントで盛り上げます！

皆で踊ろう 流し踊り

申込期限
6月20日(月)

※1団体9人以上
で申し込み。

申し込み・問い合わせ
ふれあいまつり実行委員会
(西産業観光建設課内)
☎ 0287(37)5107

燃えよ！イベント 出店者募集

申込期限
6月20日(月)

ゲームや模擬店など夏の
楽しいイベント主催者を
募集します。

申し込み・問い合わせ
自主イベント実行委員会
(西那須野商工会内)
☎ 0287(36)0697

目指せグランプリ 仮装大会

申込期限
6月20日(月)

申し込み
問い合わせ
仮装大会実行委員会
(南阿久津左官店)
☎ 0287(37)0826

さまざまな商品
を用意しています。

目指せグランプリ 仮装大会

【定員】
小中学生の部…30組
一般の部…10組
※定員になり次第
締め切り。

3人1組で、石運び・丸太引き・水くみなどを行い、
ゴールを目指します。豪華賞品も用意しています。

申し込み・問い合わせ
ふれあいまつり疏水レース実行委員会
(西那須野商工会青年部)
☎ 0287(36)0697 FAX0287(36)8279

目指せグランプリ 仮装大会

【会場図】

【会場図】
東小学校
そすいスクエア
AQUAS前市営駐車場
要町通り
桜通り
駅前通り
駅前公園通り
西那須野駅

参加者の保険(賠償・傷害)は、実行
委員会で加入し
ます。

※詳しい内容は、
広報なすしおば
ら7月5日号で
お知らせします。

まつりを開拓せよ！ 疏水レース(一般・小中学生)

写真で伝わる躍動感が評価
～全国広報コンクール入賞～

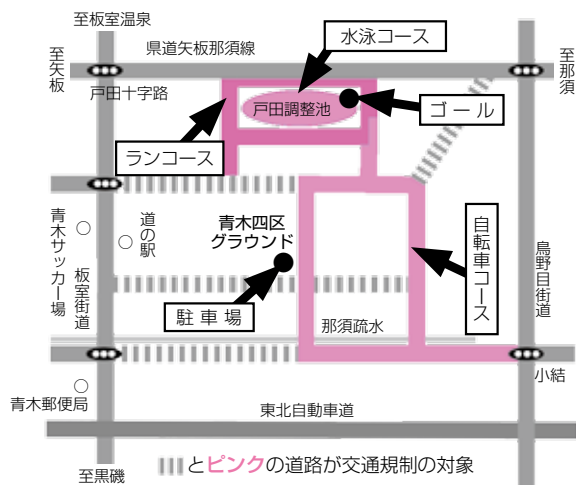
昨年の本大会を撮影した広報なすしおばら7月20号の表紙が、全国広報コンクールの広報写真(一枚写真)部門で入選しました。このコンクールは自治体の広報活動の向上を目的に、広報誌をはじめとした作品を日本広報協会が審査・表彰するもの。

己の限界に挑む選手たちが繰り広げる熱いドラマは必見です。



大会開催中の交通規制に協力してください
規制時間【午前10時～午後4時】

※戸田、青木一区・四区、小結、小結開拓、藤田一区・二区地内の市道が自転車とランの競技コースになり、交通規制が行われます。



▼とき 6月26日(日) 女子:午前10時 男子:午後0時50分
▼ところ 戸田調整池周辺特設コース
※駐車場は青木四区公民館隣の「青木四区グラウンド」を利用してください。
▼問い合わせ 函スポーツ振興課 ☎0287(37)5439

02 2016関東学生トライアスロン選手権 那須塩原大会

アスリートたちの戦いに、皆さんの声援をお願いします。

01 第11回那須塩原ハーフマラソン 参加者募集

▶問い合わせ 函スポーツ振興課 ☎0287(37)5439

▶とき 11月3日(祝木) 開会式 午前8時30分
▶ところ くりそ運動場と周辺コース(コース図参照)

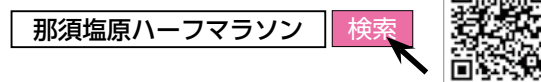
	ハーフ(21.0975km)	5km	ランウォーク(1km)
▶対象・参加費	一般:3,000円 高校生:1,000円		障害手帳保持者またはそれに準ずる人:無料
▶定員	全体で1,800人 ※定員になり次第締め切り		
▶申込開始日	6月15日(水)		
▶申込方法・期限	WEB:8月15日(月) 郵便振替用紙:7月15日(金)		スポーツ振興課に直接申し込み:8月15日(月)

※今回、くりそ運動場の野球場改修に伴い、3kmと2kmのコースは実施しません。

コース図 ハーフ(21.0975km)



▶WEBでの申し込み



▶郵便振替用紙での申し込みは次へ連絡
【那須塩原ハーフマラソンパンフレット発送センター】
☎03(3714)7924(受付時間:平日午前10時～午後5時)
※郵送料の負担あり。

▶大会パンフレット設置場所
函商工観光課、函スポーツ振興課、函産業界観光建設課
市内各スポーツ施設・公民館・図書館

コース図 5km



大会運営ボランティア
スタッフ募集
申込期限 8月15日(月)
詳しくはスポーツ振興課
へお問い合わせください。

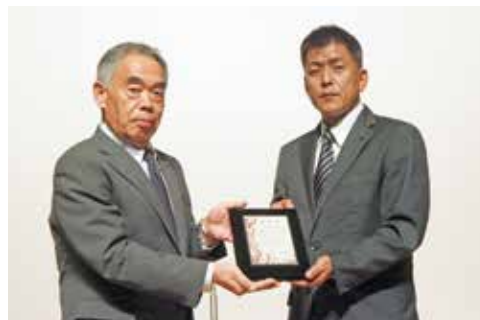


統一のデザインに看板をリニューアル

「子どもを守る家は、子どもたちが危険を感じた時に駆け込める場所、民家や店舗などの協力を得て設置しています。地域で子どもたちを見守っている目印となり、不審者への抑止効果を発揮していますが、近年は協力者が減少傾向にあります。子どもたちにとって安心・安全な地域づくりのために、新たに「子どもを守る家」を募集しますので、協力をお願いします。

○青少年センター(函生涯学習課内)
☎0287(37)5925

04 地域で子どもたちを守る「子どもを守る家」協力者募集



市は、ごみの減量に取り組む「那須塩原市ごみ減量等協力事業所」の中で、その成果が顕著だった(株)ダスキン栃北を表彰しました。支店長の角田さんは、あいさつで「事業所から出るごみを8種類に分別するなど、6年前から取り組んできた活動の成果がようやく出てきた」と活動内容を振り返り、「これからも模範となる企業として活動したい」とごみ減量へのさらなる意気込みを語りました。

○環境対策課 ☎0287(62)7301

03 ごみの減量に貢献した優良事業者を表彰

～優良事業者を表彰～



ゴールを目指してラストスパート ～湯けむりマラソン全国大会～

塩原温泉街で毎年恒例となっている湯けむりマラソン全国大会が4月29日に開催され、39回目を迎える今回は、全国19の都府県から1,700人を超えるランナーが参加しました。

今年は西風が強く、選手たちは沿道からの応援を受けながら、強い向い風の中、温泉街からゴール地点の塩原小中学校を目指し力走。

また、地元の人たちから温かいスープが振る舞われ、選手たちの疲れを癒していました。



元気の秘訣は登山にあり? ～日留賀岳開山式～

5月14日、塩原にある日留賀岳で開山式が行われ、60人が道中の安全祈願後、頂を目指しました。

約1,849mの道中は、低地では鮮やかな新緑に始まり、高度が上がるとハル lindowなどの小さな春が登山者をお出迎え。年齢を感じさせないほどのハイペースで山を登るのは、茨城県から参加した根岸さん(77歳)。「元気の秘訣は山かな。山登りは生涯現役で楽しんでいきたい」と話します。下山後の筆者の足はパンパンで、切なくなりました。



心身を癒す 温泉へ感謝 ～板室温泉三大祈願祭～

板室温泉三大祈願祭の最後を飾る「お焚き上げ」が、4月24日に板室温泉街を流れる那珂川の河川敷で執り行われました。

祈願祭は、1月から4月にかけて板室温泉三大祈願所である板室温泉神社、筆岩神社、木の俣地蔵のお札を各旅館の温泉湯口に供え、病氣平癒や子宝など各祈願所のご利益を願うもの。

この日、各旅館から回収した78枚のお札を旅館関係者が火にくべ、祈願祭を締めくくりました。



お母さん いつもありがとう ～ミニカーネーションはちうづくり～

5月8日は母の日。那須野が原博物館では、親子体験イベント「ミニカーネーションはちうづくり」が開催されました。子どもたちはもちろん、お父さん、お母さんたちも作品作りに夢中な様子。親子で協力して、色とりどりの綺麗なカーネーションを咲かせました。

感謝の気持ちとともに贈る手作りのお花。受け取ったお母さんたちの幸せそうな笑顔が思い浮かびます。心温まる時間になったことでしょう。

5月5日に波立で「どろんこサッカーフェスティバル」が開催。子どもたちは縦横無尽に田んぼの中を駆け回り、最高の笑顔でプレーしました。



5月21日に佐野の「にへいふあ〜む」で、首都圏からの家族連れなど15人が田植えにチャレンジ！「生まれて初めてトラクターを運転したが、まっすぐ植えなければいけないと思い、とても緊張した」とはるばる大阪から参加した植村さん。

都会の生活ではなかなか体験できない作業をみなさん楽しんでいました。

田んぼって楽しい！



地区の子どもを対象に二区町公民館で行われた田んぼの学校。4月24日に種まき、5月21日には田植えが行われ、のべ40人ほどの子どもがお米のできる過程を学びました。



5月9日、波立小5年生が学校裏の松本さんの田んぼを借り、田植えを体験。「収穫して食べるのが楽しみ」と苗の成長が待ち遠しいようです。



共に学び、未来に向かって
～新生・関谷小学校開校式～



旧関谷小学校と旧金沢小学校が統合して生まれた、新生「関谷小学校」の開校式が4月23日開催されました。

新生関谷小学校の児童は158人。この日は子どもたちのほか保護者や関係者が参加。石川文保校長が「関谷、金沢両校の豊かな教育文化を基盤とし、良いところは積極的に取り入れ、子どもたちが夢を抱き、生き生きと生活できる学校にしていく」とあいさつ。

また、児童を代表して6年生の佐藤優羽さんと伊藤碧君が「共に学ぶ」を合言葉にみんなで力を合わせ、勉強や運動に励んでいきたい」と抱負を述べると、会場からは大きな拍手が送られました。

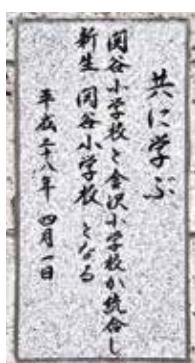
子どもたちはすでにみんな打ち解けあっていて、校内には元気な声が満ちていました。



式典後のアトラクション。県警音楽隊との楽しいひととき。



自ら志願して代表となった、旧金沢小・関谷小出身の2人。



校門に設置された石版。子どもたちだけでなく、それぞれの地域がともに手を取り合い、協力していく「みんなの学校」の意味も込められています。



保育士さんって大変！
～お母さんたちの保育士体験～

市内各保育園で実施されている保育参加。お母さんやお父さんが保育士体験をし、家庭と保育園がお互いの状況を理解し合うことが目的です。5月19日、ひがしなす保育園で保育参加を行った八木澤さんは、「自分の子どもの面倒を見るだけでも大変なのに、こんなにたくさんのお母さんたちを毎日相手にしているなんて、保育士さんって本当にすごいなって思います」と体験を振り返りました。子どもたちにとっては、お母さん先生と遊ぶことができてとても嬉しい1日になりました。



FUN! FUN! English!
～新設カリキュラムで英語活動～

市では、コミュニケーション力育成を重視した「那須塩原市小中一貫英語教育カリキュラム」を2年かけて作成。4月よりそれを使用し、市内の小・中学校で英語教育を実施しています。4月25日、研究校に指定された大山小学校の4年2組で、本カリキュラムによる授業を行いました。授業のめあては「自分の考えを伝えよう」。子どもたちはお互いの考えを伝え合う面白さを存分に感じた様子。英語活動＝楽しい！が英語によるコミュニケーション力を身に付ける第一歩になることなのでしょう。

子育てに悩んだら行ってみよう！（7月）

育児相談

育児の不安、1人で悩まないで。
お話しにきませんか。

保健師や栄養士などによる相談を行っています。
お気軽にお越しください。

	とき	ところ
5日(火)	午前9時30分～11時	黒磯保健センター
14日(木)	午後1時30分～3時	西那須野保健センター

※西那須野保健センターは事前の申し込みが必要です。

母親学級

お母さんになるための準備、
みんなで一緒にしましょう！

妊婦さん同士の話し合いや体験学習をします。
ママ友づくりの場にもなっていますよ！

	とき	ところ
7日(水)	午後1時30分～3時	西那須野保健センター

テーマは、「ママと家族の健康づくり」！ 家族の人(お父さんになる人)も、ぜひ一緒に参加してください。
※予約制になりますので事前にお申し込みください。

問い合わせは
○黒磯保健センター
☎0287(63)1100
○西那須野保健センター
☎0287(38)1356



子育てサロンのすすめ

新しい子育てサロンができました

- ▶ところ 東那須野公民館 多目的ホール
- ▶とき 初回は6月29日(火) 月1回開催
7月以降の日程はHPで確認できます。



その他サロンの
開催日はこちら！

子どもと2人きりでこもりがち。
誰かと話したい…。
そんな時は子育てサロンに来てみませんか？



☆子育てサロンのおすすめポイント☆

- ・ママ友ができる！
- ・ベテランのスタッフが一緒に面倒を見てくれる！
- ・スタッフやママ友と悩みを共有できる！
- ・遊び道具が豊富！
- ・子どももママもリフレッシュ！

▶問い合わせ
関子ども・子育て総合センター ☎0287(46)5537

育児ママヘインタビュー！



インタビューに協力してくれた
武田 紘美さん
凛ちゃん(4歳)
士くん(0歳)

一昨年3月に千葉県から那須塩原市にUターンしてきた武田紘美さんにお話を伺いました。

Q なぜ那須塩原市に戻ろうと思った？

A 夫は仕事が忙しく、1人での子育てに限界を感じたからです。実家が那須塩原市なので、いざという時に頼れる人が近くにいることが嬉しかった。

Q 限界を感じたのはなぜ？

A このままでと娘を叩いてしまおうと思って、別の部屋に閉じこもった時がありました。今振り返ると、気付かないうちにストレスが溜まっていたんだと思います。戻ってからは、実家の協力もあり、体にも心にも余裕ができました。子どもと離れる時間をうまく作るのも大切なんだと感じています。

Q 将来のパパ・ママにアドバイス

A 頑張りすぎないこと。頼れる人にきちんと頼ること。自分自身のリフレッシュを忘れないこと。あと実家の近くがオススメ(笑)大好きな子どもたちと笑顔で向き合うためにも、心に余裕を持つようにしています。

とても穏やかな様子の紘美さん。凛ちゃん、士くんもパパ・ママの愛情をたっぷり受け、元気いっぱい過ぎていてくれるようです。

※インタビューコーナーに出してくれる、子育てに奮闘中のママ(パパ)さんを募集中♪
お問い合わせ
関子育て推進課
☎0287(62)7109

み~つけた



高山植物の季節
~ミヤマキスミレ~



ミヤマキスミレの花 撮影日時:2015/5/30 撮影場所:三斗小屋温泉

ミヤマキスミレって?

スミレ科
Viola brevistipulata var. acuminata
オオバキスミレの高山型でやや日陰の林床に見られる。しばしば群生する。
栃木県レッドデータブック準絶滅危惧(Cランク)
5~7月頃花を咲かせる。草丈は5~15cm程度。



同日に撮影したイワカガミ



アリス パッキエ
Profile
本市の国際交流員(CIR)。フランス出身。フランスで大学在学中は日本語、英語と国際関係を専攻。卒業後は、アメリカの大学で教師として勤務。平成25年7月から本市に勤務。趣味は料理、映画鑑賞、旅行、台拳道、弓道、ソフトバレーボール。

梅雨到来く青い花と青い夢

梅雨の季節になると、私は「青い花」になります。「青い花」は「ロマンチックで感傷的な女性」を指すフランスのことわざ。日本では、「青」は、若さや未熟さのイメージなので、色の印象が少し違います。
雨の日はブルーな気持ちになりがちですが、あじさいや水いっばいの田んぼ、カエルの鳴き声を楽しむのがこの時期のマイブーム。水にいられないロマンチックな景色です。
また、青は海外を象徴する海の色でもあります。海外に対する関心を持ち、外国語を学ぶことの大切さを子どもたちに感じてもらうことが、私の役目。市内の学校で自身の「青い夢を伝えながら子どもたちの世界観を広げ、チャレンジを応援しています。
日本の6月は雨がたくさん降るのに「水無月」と呼ばれて不思議でしたが、「無」は「の」にあたる助詞で、「水の月」の意味だと知りました。フランスには梅雨がないため、水の月はありません。過ごしやすいフランスの6月は「音楽の月」で、音楽祭りの日である21日には、各地でさまざまな音楽イベントが楽しめます。
那須塩原でも音楽イベントがもつとあればうれしいです。そうならば、いろんな会場で音楽を聴きながら、皆さんと会おうと思います。

(※1)国際交流員(CIR)とは...
JETプログラム(※2)により招致される外国人青年の職種の1つで、地域における国際化の推進に取り組みます。
(※2)JETプログラムとは...
国や(一財)自治体国際化協会の協力の下、地方公共団体が実施する「言語指導等を行う外国青年招致事業」のこと。

募集集中!
なすしおぼら
珍百景
なぜここに!?「謎のパンダ」



投稿者 えびちゃんさん(20代男性 上厚崎)
撮影場所 越堀・昭明橋周辺(撮影日 H28.4.8)
応募はこちら
謎のパンダの置物を見つけました。薄汚れていて、とても哀愁が漂っていました。誰が、何の目的で、いつ置いたのか...知っている人がいたら、教えてください(笑)



山の雪も完全に解けて、山には色とりどりの花が咲き始めました。過酷な自然条件に耐え、時期が来ると約束したかのように花を咲かせる高山植物には、大きな魅力を感じます。
山に出かけましょう。
今回紹介するのは、三斗小屋温泉地内のミヤマキスミレ。(三斗小屋温泉は、那須塩原市の飛び地です)
ここは那須連山の中なので、いろいろな高山植物が見られます。撮影した日は、雪が解けたばかりの場所に、イワカガミやベニバナイチヤクソウなどが淡紅色のかわいらしい花を咲かせていました。他には日当たりの良い場所で、新緑の中に紅紫色の花が鮮やかなムラサキヤシオツツジなどが見られました。
ミヤマキスミレはオオバキスミレの高山型と言われています。この2つはとてもよく似ていますが、3枚の葉のつき方で見分けることができます。ミヤマキスミレは、ほぼ同じ大きさの3枚の葉がほぼ同じ高さについているのが特徴です。それに対しオオバキスミレは、3枚の葉のうちの1枚が大きく、少し下についています。黄色いスミレを見かけたら、葉に注目してみてください。
先日、「このコーナーを楽しみにしています」とのメールをいただきました。ありがとうございます。今後がんばっていきたいと思います。

おさむ

編集後記

ホテル特集7ページの写真は「人とホテルが共存する未来」をイメージして撮影しました。企画が決まった5月の中旬から、市内の各所を回ってホテル探し。市内でゲンジボタルが飛び始めるのが早くて例年6月上旬という話を聞き、絶望視していましたが...探し始めて10日目、ようやく見つけました。飛んでい

【お詫びと訂正】
5月20日号の次の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
○13ページ「市総合団体卓球大会」(誤) 三島体育センター (正) にしなすの運動公園
○裏表紙 カレンダー 市県民税第1期納期限 (誤) 6月1日 (正) 6月30日
○裏表紙 休日当番医 6月26日 (誤) 大島内科小児科医院(黒磯幸町) ☎0287(62)0106 (正) 金澤医院(中央町) ☎0287(62)0029

なすしおばら

げんきびと
元気人

あなたの身近な
元気を募集中



>>> NPO法人なす食育塾理事長

No.26 平山 恵美子 さん

茨城県出身。那須町の調理員として35年勤務。退職後、5年前に調理員仲間となす食育塾を設立し、今に至る。「元気のらクラブ」と称する農作業体験や、料理教室など、親子で楽しむ活動が盛りだくさん。

Pick up



ちびっこクッキング!
今回のメニューはジャコ
のかりんとうとお焼き。
みんな真剣です。



元気のらクラブでの
農作業。みんなで人
参を収穫しました。
農作業の後はみんな
でおやつタイムも!



なす食育塾で作成した「食育かるた」。朝ご飯やバランスよく食べることの大切さを楽しく学べます。

「食」は生きていくうえで最も大切なもの
決してないがしろにしてはいけません



なす食育塾を詳しく知りたい人は…

なす食育塾

検索

全ての人が「食」に関する知識と技を身につけられるよう、さまざまな事業を展開し、地域における「食」のエキスパートを目指して活動する「なす食育塾」。理事長を務める平山恵美子さんにお話を伺いました。

「朝ご飯は食べないよ」「野菜は嫌いだから残すんだ」平山さんが調理員の仕事をやる中で、こういった子どもたちの多さに危機感を覚えたのが、なす食育塾設立のきっかけ。

農作業をとおして食物のなりたちを知ってもらえれば、子どもたちの意識も変わるかもしれない。そこで、「元氣

のらクラブ」という体験型の活動を始めました。発足当時は、初めての農作業に苦戦。「近隣の農家の方々にアドバイスをいただき、失敗してもリベンジ!と前向きに取り組みました」と振り返ります。

今では、平山さんにとっても子どもたちと関わるいい機会であり、楽しみのひとつに。「何年も継続して来てくれている子を見ていると、『食』への思いがどんどん成長していくのが分かります。これが1番のやりがい」と微笑む平山さん。好き嫌いの多い子どもも、自分で育て収穫した野菜なら食べるようになるんです。野菜が育つ過程を見て愛着がわき、自分の野菜に名前をつける子までいるとか。

現代では、手作りのおやつを食べる機会も減っています。朝・昼・晩の3食と合わせ、家庭の味が子どもの食への意識を育むと考え、親子での料理教室も開催するようになりました。

「子どもを対象に始めたことでしたが、活動をとおして、若い世代の親の食に対する意識を育むことも必要だと気づきました。その親たちを育てたのは私たちの世代。きちんと伝え、教えていかないと。1人でも多くの『食を大切に心』を育むことができるよう活動していきたいです」と今後への意欲を語りました。